

北海道サイクルルート連携協議会の取組状況

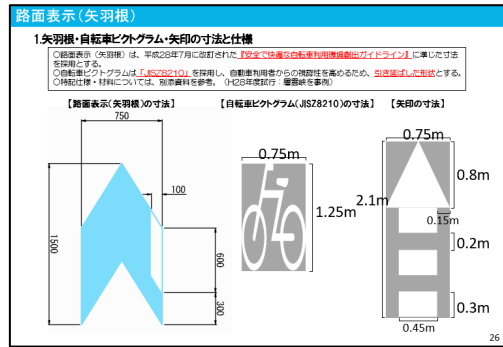
令和8年2月27日
北海道サイクルルート連携協議会アドバイザー会議

走行環境に関する主な取り組み①

案内看板・路面表示（矢羽根）仕様基準を運用した走行環境整備（北海道開発局・北海道）

基幹ルートのご案内サイン、路面表示矢羽根の標準仕様、地域ルートのご案内サインの標準仕様を作成し各ルートで運用し走行環境を整備。 **継続**

▼標準仕様



北海道開発HP
(https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kn/dou_kei/splaat000000utuk.html)より抜粋



矢羽根



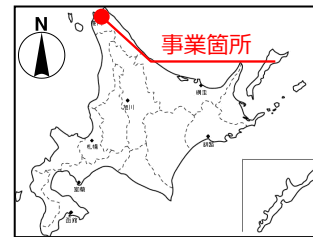
案内看板(左:基幹ルート・地域ルート重複区間、右:地域ルート)



自転車走行環境改善のための路肩の拡幅（北海道開発局）

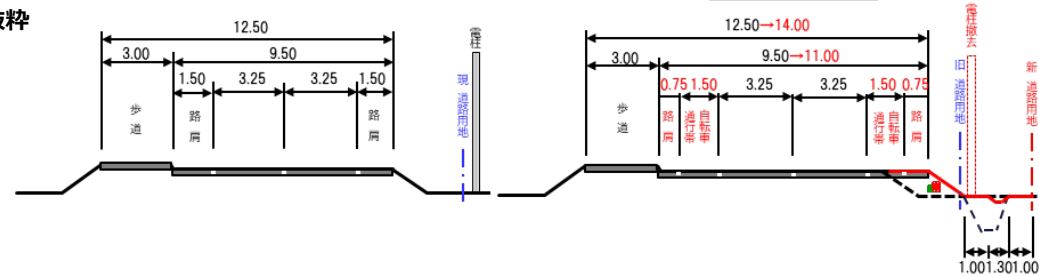
稚内開発建設部管内において、路肩の狭い国道において、路肩を拡幅し自転車が走りやすい環境を整備 **継続**

▼整備事例(きた北海道ルート)



現況断面 (A-A)

計画断面 (A-A)



※写真加工によるイメージ

走行環境に関する主な取り組み③

管理者同士の連携（北海道建設部）

継続

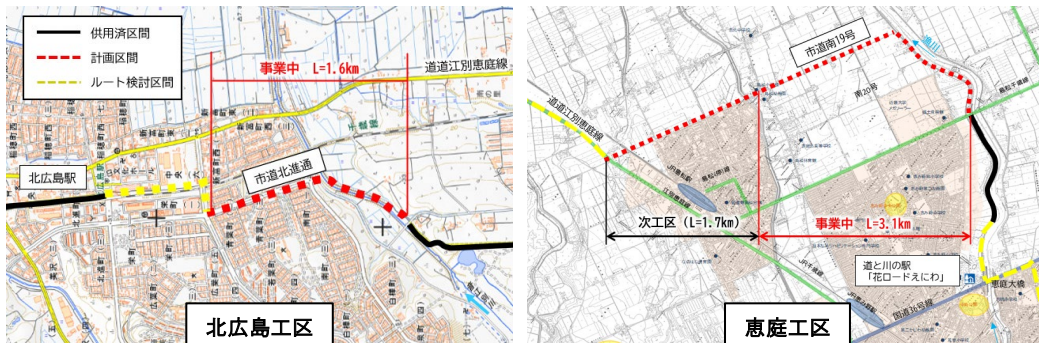
過年度取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 開発局や関係機関と連携した取り組みを実施 詳細は、各建設管理部において調整
現在取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 開発局や関係機関と連携した取り組みを継続 詳細は各建設管理部において調整
今後の取組検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続予定

走行環境整備支援（北海道建設部）

新規

ルート名	取組内容
石狩川流域圏ルート	自転車歩行者専用道路の整備（札幌恵庭自転車道）
きた北海道ルート（旭川市）	矢羽根型路面表示の設置（旭川環状線ほか）

石狩川流域圏ルート(札幌恵庭自転車道線)



きた北海道ルート(旭川市) 矢羽根型路面標示



市町村への情報提供（北海道建設部）

継続

過年度取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 市町村の自転車活用推進計画の策定の促進に向けた情報提供や説明会を実施。
現在取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 自転車ネットワーク計画調整会議準備会を開催し、市町村の自転車ネットワーク計画の策定の促進に向けた情報提供を実施。
今後の取組検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 自転車ネットワーク計画調整会議を開催し、市町村の自転車ネットワーク計画の策定の促進に向けた情報提供を実施予定。

自転車ネットワーク計画調整会議の設置について

● 自転車ネットワーク計画の更なる策定に向けて、国と都道府県・市区町村が連携し調整会議等を通じて、相互調整や計画策定の働きかけ、取組への支援等を実施する場として、都道府県ごとに自転車ネットワーク計画調整会議の設置を推進

自転車ネットワーク調整会議

目的・役割
自転車ネットワーク計画の策定及び整備に向けて以下について意見交換・情報共有
・自転車ネットワーク計画の策定等に関すること
・自転車利用、歩道の状況等に関すること
・政策や効果等に関すること
・その他必要と認められること

スケジュール
9月 準備会議の発出
10月 準備会議の開催
11月 準備会議での意見等を関係委員会や計画・データ等に関する調整会議等に反映
12月 調整会議の設立・開催
（以下は予定日数）

準備会の議題
① 本会からの積極的提供
・自治体間の連携促進等の必要性
・自転車ネットワークに関する取組
・自転車ネットワーク計画の策定等
② 準備会からの積極的提供
・管内の自転車ネットワーク計画の策定状況
・管内の自転車ネットワーク計画の策定状況
・その他
③ 意見交換

特別 都道府県単位の設置
・自治体事務所
・都道府県、政令市
・市区町村
（準備会とは、自転車ネットワーク計画策定決定の自治体等と呼ばれるが、参加費のある自治体から順次拡大）
・都道府県整備本部（事務局の参加は任意）
※事務局は、関係機関及び関係団体
※事務局等の設置の是非と合同開催する等、効果的な運用を検討



自転車ネットワーク計画調整会議準備会資料より抜粋(R7.10.27) 自転車ネットワーク計画調整会議準備会(R7.10.27)

第3期 北海道自転車利活用推進計画（次期推進計画） （R8.3策定予定）

第3期 北海道自転車利活用推進計画（素案）概要
～「高まる安全性！深まる安心感！広がる自転車＝北海道！」～

I はじめに	II 自転車を取り巻く環境と課題
<p>1 策定趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> 通勤や通学、買い物など、日常生活の身近な交通手段として利用されてきた自転車は、近年の社会環境の変化に伴い、その果たす役割が一層広がっており、特に、環境負荷の低減や健康増進、観光振興に加え、災害時の移動手段としての有効性が高まっている。 令和4年度及び6年度の道路交通改正で、自転車乗車用ヘルメット着用努力義務化や、ながらスマホ、酒気帯び運転などに対する罰則規定が整備されるなど、自転車の安全利用をめぐる規範も新たな段階を迎える。 道内では令和3年の「トカプチ400」のナショナルサイクルルートへの指定や、自転車通行空間の整備も進められており、親も自転車の価値が目まぐるしく高まっている。 社会環境の変化や本道の特性を踏まえ、通民一人ひとりが安全で安心して自転車を利用できる社会の実現に向け、幅広い自転車関連施策を総合かつ計画的に推進するため、本計画を策定。 	<p>1 自転車を取り巻く環境</p> <p>(1) 自転車の利用状況、ヘルメット着用状況及び損害賠償保険の加入状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 通勤・通学・徒歩修正における交通手段では、自転車の利用率は全国平均を下回っている。 ヘルメットの着用率、損害賠償保険の加入率は、全国平均を下回っている。 <p>(2) 道路交通改正</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗車用ヘルメットの着用が義務付けられた（努力義務） 運転中のながらスマホが罰則の対象となった 酒気帯び運転及び補助に対して新たに罰則が整備された <p>(3) 安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン改定</p> <ul style="list-style-type: none"> 面的な自転車ネットワーク計画の作成方法などが示された 自転車通行空間設計の考え方が示された <p>(4) 「トカプチ400」ナショナルサイクルルートに指定、アドベンチャーレベルの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 十勝平野のサイクリングルートがナショナルサイクルルート指定 ATWS2023におけるサイクリングを含む体験ツアーの開発
<p>2 推進期間</p> <p>策定時から令和12年度（2030年度）まで</p>	
<p>3 本計画の位置づけ</p> <p>「自転車活用推進法」第10条の規定に基づき、都道府県自転車活用推進計画として策定</p>	

受入環境に関する主な取り組み①

知床半島一周サイクリングの試行 (SBW支援センター)

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 空知シーニックバイウェイと連携した「サーモンライド」の試行、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイの連携による知床半島一周サイクリングの参画
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドのサイクリストによる知床一周サイクリング試行のため、シンガポールと香港からのサイクリストの招聘をコーディネート。また、尾岱沼のトドワラと尾岱沼漁港の間で観光船を使った自転車の移動実験をサポートした。
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の試行結果を整理し、今後のサイクルルート形成に向けたルートの登録や体制整備についての検討に参加

▼モニターツアーの様子(シンガポールのサイクリングツアー会社を招聘)



▼観光船での自転車輸送の試行(尾岱沼トドワラ→尾岱沼漁港)



鉄道と路線バスを活用したひがし北海道エコモビリティの推進(SBW支援センター)

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイが、釧路空港から納沙布岬までの移動を、サイクリングやカヌー等人力による移動と公共交通を組み合わせ、エコモビリティツアーの試行
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> しまなみ海道の現地調査、アンケート調査を実施、有識者との意見交換等の調整や質問紙の作成をサポート
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光コンテンツ、旅行プラン造成や、JR根室駅からのレンタサイクル事業の実施に向けた体制整備の検討に参加

▼道の駅や大規模自動車道路休憩所でのアンケート調査(しまなみ海道)



▲シーニックバイウェイ北海道アドバイザー会議委員 羽鳥剛史氏と意見交換会(松山市)



JR釧網線▲

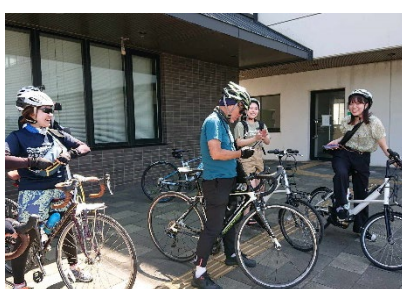


受入環境に関する主な取り組み②

レンタサイクル事業 (SBW支援センター)

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市でレンタサイクル事業を実施（個別貸し出しは休止中で、主にサイクルイベントを中心に貸し出し） 電動アシスト、マウンテンバイクなど、オフロードバイクのレンタルを実施 北広島市、豊頃町、鶴居村でレンタサイクル事業に協力
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> イベントを中心としたレンタサイクル事業を中心に継続
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続を予定



▲石狩川流域圏ルート走行会でのレンタサイクルの貸し出し

▲電動アシスト自転車のレンタルによる散走の実施(in 石狩市)

JR駅や道の駅を拠点としたサイクリングの 周遊拠点整備 (SBW支援センター)

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 札幌駅北口、北広島駅、恵庭駅等をスタート地点として、石狩川流域圏ルート等と連携したガイドサイクリング等の拠点整備を実施。
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> web等でのガイドサイクリングやATの広報 ガイドサイクリングの実施
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> JR駅、道の駅等を拠点としたガイドサイクリング事業を継続



▲北広島市でのガイドサイクリング
(東京からの観光客3名)



▲定山溪でのガイドサイクリング
(台湾からのご家族)

受入環境に関する主な取り組み③

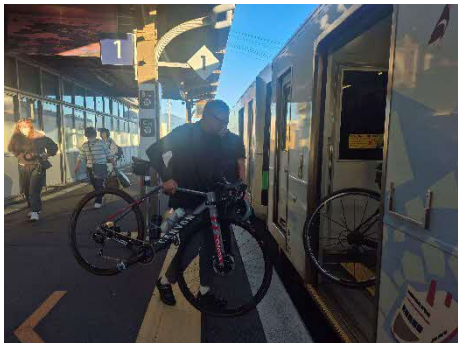
鉄道やバス等の公共交通機関への自転車の持ち込み（北海道総合政策部）

継続

過年度取組内容	<ul style="list-style-type: none"> H100形ラッピング車両によるサイクルトレインモニターツアーの実施（JR釧網線・JR花咲線）。
現在取組内容	<ul style="list-style-type: none"> H100形車両を使用し、一般の乗客との混乗によるサイクルトレインを実証運行（JR釧網線）。
今後の取組検討状況	<ul style="list-style-type: none"> サイクルトレインの実用化に向けた取組の検討。

主催：[R4]JR釧網本線維持活性化実行委員会（事務局：釧路市）
[R5～R6]北海道釧路総合振興局
[R7] JR釧網本線維持活性化実行委員会（事務局：釧路市）

▼サイクルトレインの様子



車内への積み込み状況



積み込み状況（車内）

サイクリスト応援カー（北海道開発局）

継続

国道や国が管理する河川を巡行するパトロールカーへ空気入れおよび工具を搭載しサイクリストを支援。本年度から全10ルートに取組を拡大。今後も継続予定。

▼サイクリスト応援カー（阿寒・摩周・釧路湿原ルートでの実施例）



セコマグループとの連携した取組（北海道開発局）

継続

各ルートにおける休憩施設空白地帯とコンビニの位置関係について調査。セイコーマートにサイクルラックを設置（令和7年度：187店舗設置）。

▼設置されたサイクルラック



受入環境に関する主な取り組み④

サイクリング・トレイル観光推進プロジェクト (北海道開発局)

新規

▼トイレ箇所

- 安心なサイクリング・トレイル観光を推進する観点から、次のような取組を推進。
 - ①工事現場のトイレをサイクリスト等に提供。
 - ②工事現場事務所において、工具の貸出、休憩場所等を提供。
 - ⇒R7年度は網走開建発注工事で試行的実施・検証。
 - ⇒検証結果を踏まえ、関係者の協力を求めつつ、取組の充実・拡大を図る。
- 共創チーム(想定)：サイクルルート協議会(自治体、サイクリング協会、網走開建、振興局、運輸支局)、道の駅、環境省、観光協会、網走建設業協会、工事受注者
- 21件※¹の工事がプロジェクトに参加。広範囲でトイレを提供
- 女性サイクリストから「女性に優しい取組」との評価
- プロジェクトHPのアクセス数は68件/日(平均)
- 参加工事の増や他の事業主体への展開等の充実・拡大の課題把握

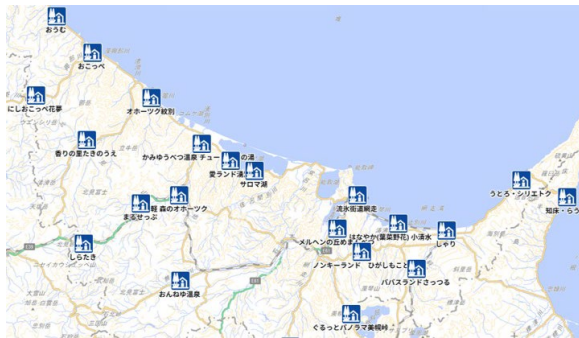


▼女性サイクリストから意見を聞き取り

※1:7月末現在。現場事務所設置工事 75件内、プロジェクト参加 21件(参加率28%)



▼管内21箇所の「道の駅」にポスターを掲示



情報発信に関する主な取り組み①

ガイドツアーの催行支援（北海道観光機構）

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> R6年度観光庁補助「特別体験事業」にて、商品造成及び情報発信を実施。利尻山一周&クライムダウンヒルコース、トカプチ400と冬のタウシュベツ橋梁ファットバイクコースを造成。
今年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> サイクリングのみをフォーカスした取組は行っていないが、今期実施事業のうちアドベンチャートラベル推進事業で実施した。国内連携商品造成事業で南茅部～鹿部～大沼コースの実踏、参加者は道内外ツアオペレーター10名。ATメディア招請事業で千歳神社～支笏湖コースの実踏、参加者は欧米豪メディア5名。 ATガイドPR事業にて、サイクリングガイドのPRを行っている。
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 海外プロモーションと情報発信

その他地域観光団体との連携（北海道観光機構）

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域が主体となり行うモニターツアー開催やイベント実施等の取組に向けた支援を実施。 ATの新たなサイクリングツアーの造成・販売
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域が主体となり行うモニターツアー開催やイベント実施等の取組に向けた支援を実施 ATの新たなサイクリングツアーの造成・販売
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 上記に加え、海外プロモーションと情報発信を検討

※伴走支援型観光地域力強化推進事業
※広域観光周遊促進事業
※アドベンチャートラベル推進事業

▼アドベンチャートラベル推進事業 サイクリングコース実踏の様子

▼R6年度特別体験コース



国内連携商品造成事業の一コマ



メディア招請FAMツアー 千歳神社界隈



メディア招請FAMツアー支笏湖近郊

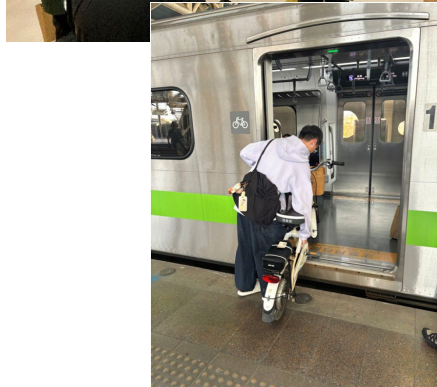


情報発信に関する主な取り組み②

海外プロモーションなどによる誘致 (SBW支援センター)

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> シンガポールからの北海道へのサイクルツアー企画実施しているSCT(シャングリラ・サイクリング・ツアーズ)との意見交換を継続し、共同ツアーの実施を検討した。
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 2025年は、「サーモンライド」「テッペンライド」をSCTの旅行商品としても販売してもらい、5人のサイクリストがシンガポール及び香港から参加した。 台湾のROHAS協会との連携に向けて宗谷・天塩川シーニックバイウェイと連携した現地調査と意見交換を行った。
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> SCTとの連携を継続するほか、他のシンガポール、台湾、欧米等のサイクルツアー会社と連携を検討する。



▲インバウンドツアー(サーモンライド)

▲台湾への現地調査と意見交換

WEBサイト等での情報発信 (サイクルルート北海道HP更新作業継続) (SBW支援センター)

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> サイクルルート北海道において、各ルートの情報提供を実施、継続 さっぽろサイクルラボでガイドサイクリングの情報提供
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> サイクルルート北海道において、各ルートの情報提供を実施、継続 サイクルルート北海道でフォトコンテストの情報提供を実施 さっぽろサイクルラボでガイドサイクリングの情報提供
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続予定



▲サイクルルート北海道HP

▲さっぽろサイクルラボ(ピクニックライド)HP

情報発信に関する主な取り組み③

官民連携の推進【PRイベントの実施】 (北海道総合政策部)

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> PRイベントにおいて、自転車試乗体験や自転車保険相談コーナーなど、企業と連携した取組を実施。
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 自転車シミュレーター体験、E-BIKE試乗体験及びヘルメット着用啓発、ナショナルサイクルルートPRなど、企業や関係機関と連携した取組を実施。 実施日：R7.9.28(日) 会場：道の駅おとふけ なつぞらのふる里
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 次期北海道自転車利活用推進計画に基づき、安全・安心の向上と日常利用の促進につながるPRイベントを実施する予定

※自転車活用等促進事業（地域政策課）

▼PRイベントの様子



会場全体



E-BIKE試乗体験



トークショー



自転車シミュレーター

官民連携の推進【自転車活用等促進事業の一環】 (北海道総合政策部)

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 北海道自転車活用等推進連携会議の開催。 各ルート協議会や交通事業者等とのWEB意見交換会の開催。 保険事業者等の民間事業者と連携したチカホイベントの開催。 保険加入促進のコラボチラシの作成など、保険事業者等と連携した取組の調整。 販売店舗やシェアサイクル事業者等と連携したヘルメット着用推進の取組の調整。 市町村はもとより、道内企業や団体を対象とした「もっと、自転車北海道。」サポーターの募集。 GCFの実施に当たり、関係団体・企業等と連携した募集内容やサイクルオアシス整備箇所の検討。 新聞広告を活用した自転車通勤に係る自治体や民間企業の取組事例の紹介。
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> シェアサイクル事業者（ポロクル）と連携したシェアサイクル試乗体験の実施 道庁1階道民ホールにおいて自転車利活用促進パネル展
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して実施予定

※自転車活用等促進事業（地域政策課）

▼イベント開催の様子



シェアサイクル試乗会



道庁ロビーパネル展

情報発信に関する主な取り組み④

WEBサイト等での情報発信（北海道運輸局）

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 観光庁事業「地域観光新発見事業」にて造成された各サイクリングツアーについて、事業実施主体や連携組織のサイトへの掲載を支援。
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 観光庁事業「地域観光魅力向上事業」にて造成された各サイクリングツアーについて、事業実施主体や連携組織のサイトへの掲載を支援。
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光庁の補助金事業を活用し、継続予定。

▼モニターツアーのプレスリリース

環境にやさしいまち・北海道 寿都町とコラボレーション
地域の環境資源を生かした観光プログラムとしての
モニターツアー販売開始！

2025年10月08日

このページを印刷する

印刷用PDF

KNT-CTホールディングス株式会社(本社:東京都新宿区 社長:小山 伸延、以下、KNT-CT)のグループ会社である近畿日本ツーリスト株式会社およびクラブツーリズム株式会社は、北海道寿都町とのコラボレーションによる、地域の環境資源を生かした観光プログラムとしてのモニターツアーを本日から販売開始いたします。



函館市と札幌市のほぼ中間に位置し、日本海に面している寿都町は地形的に強い風「だし風」を活かした全向の自治体として初めて風力発電施設を設置し、環境に配慮した取り組みを先進的に進めてきました。

一方で観光客を惹きつける観光コンテンツが造成できていないことや、情報の拡散が限られていることなどの地域課題をかかえていました。

環境に配慮した先進的な取り組みを活用しPRしていくために、この度寿都町とKNT-CTがコラボレーションをし、寿都町が進めている「ゼロカーボンシティの取組み」を体験できる地域の環境資源を生かした観光プログラムの創出事業として令和7年度 観光庁「地域観光魅力向上事業」に採択されました。この事業の一環としてモニターツアーを企画いたしました。

モニターツアーでは、水産庁の「海業」モデル地区にも指定されている寿都町が豊かな海の保全活動として20年近く前から実施している「海産物解体ブロック」や「産卵」を海洋へ投入する「海への送還活動」を体験いたします。

また、宿泊プランでは日本に風車（風力発電）がある寿都町の景色を、車ではなくサイクリングで楽しむ体験をすることで「脱炭素のまち」を体験いたします。ぜひ多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

ツアーの詳細情報

出発日

- 宿泊プラン:2025年11月11日(火) (11月2日 寿都町祭日)

▼連携組織サイトへのツアー掲載

Top / Our Tours / Heart of Hokkaido Cycling Adventure

For advanced adventurers

Heart of Hokkaido Cycling Adventure

8 days tour with 5 days road cycling around Daisetsuzan national park
Ride your own bike through Daisetsuzan National Park on some of the world's safest, most comfortable roads.

Duration 8 days	Tour Price (incl. Tax) JPY (depends on the season and dates)	Tour Capacity min. 6 - max. 10	Language ENGLISH
Departure Date June - Sep	Tour From / To New Chitose airport		

HIGHLIGHTS

Challenging cycling tour round Daisetsuzan National Park
Views of Daisetsuzan and Tokachi-hakuba from many different angles on your own bike.
Stay in different accommodations in the area.
After cycling party to celebrate each other's hard work called "UCHIHAGI" at local IZAYAYA for the final night

TOUR ITINERARY

DAY 1
Meet the cycling guide at New Chitose airport and take a private bus to Shin Furano Prince Hotel/New Furano Prince Hotel. Please rest well.

DAY 2

Top / Our Tours / Peak Hunter Challenge Bike & Hike

For advanced adventurers

Peak Hunter Challenge Bike & Hike

Aim for the top !
Aiming for the summit of Mt. Furumaki, we run through the basin, the steep plan and climb the mountain.

Duration 4 days	Tour Price (incl. Tax) JPY (depends on the season and dates)	Tour Capacity min. 2 - max. 8	Language ENGLISH
Departure Date Late Aug - Sep	Tour From / To Shin Furano Prince Hotel		

HIGHLIGHTS

Furano Mt. Climb (by 1-bike)
Yukachi Mountain Range hiking (Furano Summit Round Trip)

TOUR ITINERARY

DAY 1
Meet at Shin Furano Prince Hotel
Tour briefing after dinner

DAY 2
E-bike/electric bicycle cycling
Furano Mt. Climb
Paruette Road Ebane
Hinode Park
Lunch BBQ at North Grandeur Mt. Climb
Hotel Stay at Noyanaka

情報発信に関する主な取り組み⑤

サイクルパネル展の開催（北海道開発局）

新規

5月の「自転車月間」に合わせて、サイクルルートの魅力と認知度の向上を図るため、サイクルルートのゲートウェイ、休憩施設、道の駅、公共施設などでパネル展を開催。
開催会場は、合計で39日間で29箇所実施し、延べ679回の開催。

▼石狩あいろーど厚田

▼北斗市観光交流センター別館 ほっくる



自転車利用環境向上会議への参加（北海道開発局）

継続

全国の自転車施策関係者や一般の方々に対して、管内の自転車利用環境向上の取り組みや、サイクルツーリズムの取り組みをPR

▼ポスターセッション

▼ポスターの展示



ベスト・サイクル・プロジェクト2025（北海道開発局）

継続

北海道におけるサイクルツーリズム推進に向けて、他の模範となるサイクルルート協議会活動の積極的な創出や啓発・普及を目的とし実施。

■応募～表彰までの流れ

各ルート協議会からプロジェクト・取組の応募

①1次審査
(書類・動画)

②最終審査
(プレゼン)

決定
表彰

フォトコンテスト2025（北海道開発局）

継続

サイクルルート北海道フォトコンテスト2025開催。

▼フォトコンテストのリーフレット



▼Instagramでの情報発信



シーニックルートとの連携 (SBW支援センター)

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> シーニックバイウェイ北海道の各ルートが関わってサイクルルート北海道の登録ルートで開催されるサイクリイベントについて、共催での実施、モニターや有識者の推薦及び調整、会議運営や情報提供等の形で連携、協力を実施している。
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 2025年9月空知シーニックバイウェイと連携した「サーモンライド」(札幌・滝川・旭川)を試行し、その後、「TEPPEN-RIDE2022」と接続するツアーの試行を行った。
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 2026年度も「サーモンライド」の試行と「TEPPEN-RIDE」との連携事業は継続を予定しているほか、各ルートからの要請に応じて連携、協力する。



▲美幌市
サーモンライド宮島沼・水鳥湿地センター



▲旭川市 テッペンライド出発式



▲旭川市 神居古潭



▲旭川市 テッペンライドヘコネク

企業との連携 (SBW支援センター)

継続

過年度 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> (株)シマノ主催の、大学生を対象とした「ソーシャル×散走」企画コンテストへの北海道内大学への参加案内と企画立案のサポートに協力。現在まで、北海道科学大学、藤女子大学、函館大学、ポロクルスタッフの大学生チーム等が参加している。
現在 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> (株)シマノ主催の、大学生を対象とした第8回「ソーシャル×散走」企画コンテストへの北海道内大学への参加案内と企画立案のサポートに協力。北海道科学大学と藤女子大学のチームがファイナルに残り、北海道科学大が『ソーシャル賞』を受賞した。
今後の取組 検討状況	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も継続して実施予定

第8回「ソーシャル×散走」企画コンテストの発表資料▼



【北海道科学大学】



▲藤女子大学の企画した散走の試走サポート



【藤女子大学】

コンテンツ造成（北海道運輸局）

継続

<p>過年度 取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光庁の補助金事業「地域観光新発見事業」を活用し、各地域における以下のサイクリングツアー造成を支援。 北見エリア：ワッカ原生花園（冬期は閉園）において、夏期はサロマ湖での「夕焼けSUP」を組み合わせたサイクリング、冬期は参加者限定でワッカ原生花園を開放し、季節限定の絶景の中で行う「雪と氷のスノーサイクリング」 千歳・支笏湖エリア：支笏湖周辺での清掃等の美化活動を組み合わせたファットバイク林道サイクリング、千歳発Eバイクサイクリング 知床・根室エリア：一次産業従事者（漁師・牧場経営者）との交流や、該当する産業の食材を使用した食事を取り入れたサイクリング
<p>現在 取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光庁の補助金事業「地域観光魅力向上事業」を活用し、各地域において以下のサイクリングツアー造成を支援。 大雪山国立公園をフィールドに、欧米豪をターゲットにした大雪山一周のサイクリングツアー、ハイキングとサイクリング（ヒルクライム）のツアー。 豊富町が有する日本唯一の油温泉を核として、癒やしの体験と大規模草地までのサイクリングを組み合わせたツアー。 寿都町の環境資源（風力発電、藻場再生のための施肥玉投入、バイオマスボイラー導入の温泉）をサイクリングで巡り環境にやさしいまちを体感するツアー。
<p>今後の取組 検討状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光庁の補助金事業を活用し、継続予定。

▼大雪山国立公園エリアでのサイクリングの様子



▼大規模草地までのサイクリングの様子



官民連携の推進【自転車活用等促進事業の一環】
（北海道総合政策部）（再掲）

継続

<p>過年度 取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北海道自転車活用等推進連携会議の開催。 各ルート協議会や交通事業者等とのWEB意見交換会の開催。 保険事業者等の民間事業者と連携したチカホイベントの開催。 保険加入促進のコラボチラシの作成など、保険事業者等と連携した取組の調整。 販売店舗やシェアサイクル事業者等と連携したヘルメット着用推進の取組の調整。 市町村はもとより、道内企業や団体を対象とした「もっと、自転車北海道。」サポーターの募集。 G C Fの実施に当たり、関係団体・企業等と連携した募集内容やサイクルオアシス整備箇所の検討。 新聞広告を活用した自転車通勤に係る自治体や民間企業の取組事例の紹介。
<p>現在 取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> シェアサイクル事業者（ポロクル）と連携したシェアサイクル試乗体験の実施 道庁1階道民ホールにおいて自転車利活用促進パネル展
<p>今後の取組 検討状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して実施予定

※自転車活用等促進事業（地域政策課）

▼イベント開催の様子



シェアサイクル試乗会



道庁ロビーパネル展

その他の取り組み(ベンチマーク計測)

エコカウンターによる交通量の計測 (北海道開発局)

継続

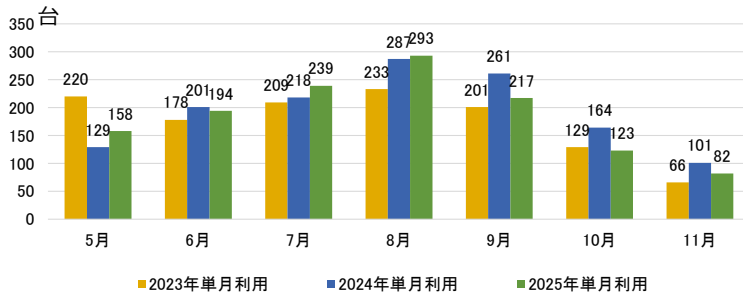
国内外で行われているサイクリング利用者数の把握手法を収集・比較検討し、利用者数を把握する手法の確立を目指すことを目的として、トカプチ400では、道路に埋め込んだコイルセンサーにより、その上を通過する自転車交通量をカウントを実施。



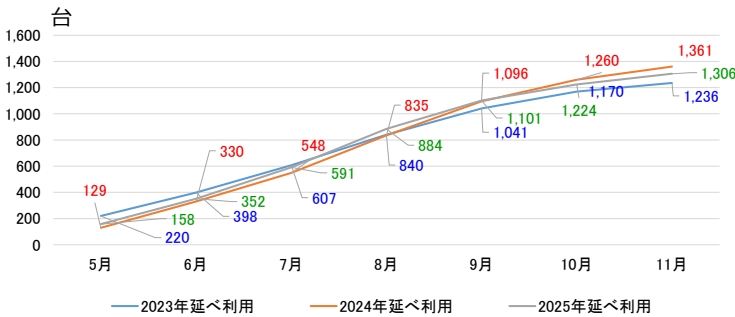
ハンドホールを設置

バッテリーと主要機器

▼サイクリスト台数(エコカウンター計測)



▼延べサイクリスト台数(エコカウンター計測)



2023年～2025年の月別サイクリスト数の推移
(帯広市方と大樹町方向の合算値) ※単位：台

ベンチマーク計測のための調査検討 (北海道開発局)

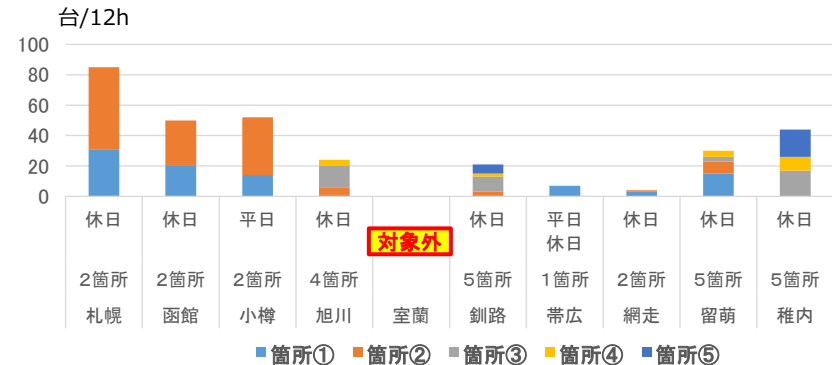
継続

自転車交通量(CCTV)、レンタサイクル貸出数、自転車イベント参加者数のように、自転車交通量のほかに把握することが可能な数値データを取得し、とりまとめを実施。

<調査中の数値>

・自転車交通量 レンタサイクル貸出数 自転車イベント参加者数

▼CCTVによる自転車交通量



各開発建設部より設置されているCCTVカメラの動画データより自転車交通量を計測。
帯広はエコカウンターの計測結果。算出方法は9月分の平日休日交通量を24h平均値として算出。
縦：自転車交通量
横：平日・休日/CCTV箇所数/各開発建設部